

四連協一ユース

68.7.2

四年生連絡
協議会執行部 No.1

教育大のすべての学友諸君！

昨日のオ立回施会において、正式に執行部の選出を行ひ組織化を進めつゝある四連協は心からの連携のあいさつを送りたいと思う。我々は、29日の教育実習セミナーにて二回目ソに對して、早研という困難に立ちかねらず總務課施会を行ひ同じ意念統一をかちとつたのである。ところで、文学生大会における本館バーチカルカード封鎖方針の圧倒的支持、その辦による状況の変化に対応して如何に斗うかを追及してきたのである。

この向の、四連協のビラ等による陳述で明らかにしてきたように、我々はあくまで四年生の勝利が、斗争の過程においてしばしば弱者として現象あることの劣化を目指して四連協の活動を行ってきた。そのため、四年生が、何よりも彼らのままで存在することにより、専門側のスト体制切り崩しの糸口となることを防ぎ、斗争への組織化を図るものであつた。専門側の教育実習オーバークリエイティブシングルに統じて、本館バーチカルカード封鎖という事態にさり就私の方統しが専門となり、してきたのである。我々は昨日、文学生部學生委員会に對して、次のよう申し入用を行つた。

文学生部以外の学部の四年生の就私事務を阻止するつもりはない。即ち一定の時間限界で堵しての就私事務の遂行を妨げない、

といふものである。しかしながら、専門側へ具体的には、就私アシスタント事務担当とは、技術的、精神的に不可能しひの理由で我々がこの主張を拒否したのである。

この就私事務の専門に因して、専門側は主要に我々に對して、本館封鎖による事務取扱精神的・物質助質担を強調している。それに対しても我々はこの本館封鎖が今年のストライキ斗争の敗北の由から生み出されただことを確認しなければならぬ。

昨年から一貫して学長、評議会との大裏腹では実現されなかつたのであり、それが故にこそ我々は本館バーチカルカード封鎖を専門ストライキ斗争を斗つこいるのである。今までの専門の癡情遮断を拾取して、本館封鎖による事務取扱等人の影響のみを強調することは、明にストライキ体制の切つ崩しであるといわざるを得ない。我々は、専門側が、専修構の専門体系の内訌と、事務取扱人の感情の専門とを混同することを強く諭告しなければならぬといふ。

専門側は、我々の就私事務に關する要求を拒否することによって、四年生が、この就私事務を実現せどして、スト体制を崩壊せしめようとしているのである。我々はこのようす専門側の力、専門張動に対して、専門の解決は調査費計上の白紙撤回以外にないことを確認し、更に専門の専門を我々の要求のように行なうことを主張していかねばならぬのである。

すべての専友諸君、とりわけ文学生部四年生の学友諸君！

右に述べた條に、専門側は文学生部以外の学部の四年生の就私事務をも我々の条件のものとては拒否したのであるが、昨日行なわれた文学生部四連協のオ立回施会において、文学生部の四年生についても専門部と同様条件で就私事務を認めることがなつたのである。しかし、これまで専門側の拒否で専門に専ら有り得たのである。

我々は、以上のよう専状況を、明確に就私事務を認めたとしての斗争の切つ崩し運動と把え此を断乎は收かえっこいく斗いを行つていがなければならぬ。そのことより、我々四連協のスクラムをより一層強化することによつて、脱着を防ぎ、戦列に常に新たな部分を加えて拡大していくことに存るのである。

スト体制の更なる強化のため、四年生は四連協に結集し、共に斗おうでは無いが！

全ての四年生は、本日の学生大会に結集し、四連協のより強固な組織化をがんごん！
他学部の四年生も専門に四連協を結成し、文と連帯して斗おう！
早急に四連協クラス委員会を復活させよ！